

会議録

会議の名称	第8回加東市地域公共交通活性化協議会
開催日時	平成28年10月28日（金）午後1時30分～午後3時
開催場所	加東市滝野図書館 3階会議場
議長の氏名（会長 土井 勉）	
出席及び欠席委員の氏名	
＜出席委員＞	
・下村 直大(代理) ・小谷 陽亮 ・荻野 史和(代理) ・水田 節男(代理)	
・細見 浩司 ・和田 治(代理) ・中戸 大介 ・岸部 憲二	
・山本 弘 ・竹内 敏郎 ・岸本 吉晴 ・石井 正敏	
・友藤 富士子 ・竹内 圭一 ・吉本 剛典 ・兒山 真也	
・芹生 修一 ・中村 隆文 ・橋本 匡史 ・吉村 進吾	
・小林 吉人 ・田中 和美	
＜欠席委員＞	
・芹生 昇 ・藤原 聖 ・高瀬 菜美	
出席した事務局職員の氏名及びその職名	
・協働部企画協働課長 長谷川 茂	
・協働部企画協働課副課長 前中 公和	
・協働部企画協働課主査 白井 隆寛	
・協働部企画協働課主事 金高 将彦	
1 議題	
・協議事項	
加東市地域公共交通網形成計画の素案について	
加東市パブリックコメント手続きについて	
2 会議資料	
・加東市地域公共交通網形成計画（素案）	
3 会議の経過	
⇒別紙「第8回加東市地域公共交通活性化協議会・会議の経過」のとおり	
<p>会 長 <u>土井 勉</u></p> <p>副会長 <u>石井 正敏</u></p>	

発言者	会議の経過 / 発言内容
	<p>1 開会 事務局 2 協議事項 1) 加東市地域公共交通網形成計画の素案について 事務局から説明(1～97ページ) 【質疑応答等】</p>
会長	<p>まずは、私からJR西日本に質問する。21ページを見ると、加東市内の鉄道駅の年間利用者人数が増えている。下のコメント上で、利用者数増の要因として、通学が増えたと推定されているが、実際、JR側の実感としては何が要因と思われているのか。</p>
委員	<p>加古川線を担当して感じているのは、乗車人員が増えた要因は、先ほども出たように、1つには、パーク&amp;ライドの設置があると思う。滝野駅については、まちの中心で家がたくさんあり、社町駅については、中心地から少し離れた所なので、パーク&amp;ライドの関係で駐車場が整備されたのは、大きな要因ではないかと思っている。</p>
会長	<p>ということは、地域の方と一緒にあって、パーク&amp;ライド等の公共交通政策を進めることが利用促進に繋がるという考えのようだ。地域公共交通網形成計画をさらに進めれば、利用者が増えていく証明にもなるため、計画推進を頑張って進めていく道筋のヒントになっているかと思う。</p>
委員	<p>1点だけ、考え方の整理として、89ページ、基本方針の4つ目「地域公共交通を地域ぐるみで守り、育てます」という柱があるが、その書き方について、2～3行目にわたって、「快適に利用できるよう積極的にサービスの見直しや改善に取り組むことが重要になります。しかし一方で」と対立概念のように書かれている。</p> <p>しかし、そうではなく、「そのためには、」というように、順接概念にしたほうが、流れとしては正しいと思う。それに、「地域ぐるみで守り、育てる」ということは、利用促進に繋がっていくわけなので、「使う」ということが第一で、使うことによって、サービスも上がっていく可能性があるということではないか。そうしたほうが、目的が明確になると思う。表現上のことだが、検討をお願いしたい。</p>
会長	<p>ご指摘のように、「重要になります。それをさらに進めるために」とか、「重要になります。それと同時に」等の表現に修正したいと思う。</p>
委員	<p>91ページの「路線バスの利用者数」について、現況値から平成33年度目標値1,300千人が出てきていると思うが、95ページの「将来の地域公共交通ネットワークを構成する具体の路線」の右欄「位置付け、方向性等」で、「現状を維持」と書かれている。目標値を達成しようとするなら、やはり、主要路線では「現状維持以上」という書き方のほうがいいと思うが。</p>
事務局	<p>目標値のほうは「利用者数」だが、95ページの「現状を維持」というのは、路線を維持するという意味で、利用者数増ということではない。今の路線を維持していくために、交通サービスの中身をどうするかについて示している。</p>
委員	<p>わかりました。</p>
会長	<p>ただ、誤解を生まないことも大切である。</p>
委員	<p>82～83ページの課題について、表現上の問題だが、課題とは「どんな点が問題か」を書くのが普通で、逆に問題をどう解決するかを書いてもいいが、バラバラな表現になっているので揃えたほうがいいと思う。課題2「地域公共交通に関する財政負担の増加」だけが問題点になっている一方で、課題1、3、4は、今後どうするかという解決の方向性になっているため、統一したほうがいいと思う。</p>
会長 委員	<p>おっしゃるとおりなので、少し表現を工夫しようというご意見である。 先ほどの路線バスの話に戻ると、私どもの大学で、ここ数年学生の公共交通</p>

	<p>機関利用を促進している。自宅からの通学を勧めるのは、学生確保という観点もある。自宅通学を勧め、JR加古川線の利用促進と、神姫バスの営業所から大学方面への路線増、この2つを促進するために、大学側でも、うまく接続ができるようにバスを途中まで運行して、公共交通機関が希薄な所は、きちんと整備していくようにしている。実質、自宅通学者が増えてきたが、右肩上がりに伸びているわけではなく、今の水準をしばらく維持できるだろうという予想だ。</p> <p>今のところ、播磨地域から多くの通学者がいるが、阪神地域から、なかなか増えないので、そちらからの自宅通学者に大学へ来てもらえるよう、大学内部で検討している。もしかすると、先ほど出た、JRの利用者数・バスの利用者数に、高校生だけでなく、大学生もカウントしていただけたらいいかと思う。</p> <p>資料の中に、高校生だけでなく、「兵庫教育大学との連携」についても、表現を強めて書いておいたほうがいいのかと思う。ここまでの話は、この後の「計画達成のための17施策」や「計画の点検・評価、検証」とも関連してくるので、説明後に、ご質問・ご意見等をいただければと思う。</p>
会長	事務局から説明。資料(98～134ページ)
事務局	<p>先程の委員の発言で、兵庫教育大学の公共交通利用促進についても、盛り込んでほしいという発言があった。それと関連するが、102ページ、施策2「パーク&amp;ライド推進」の話として、高校生が出ていたが、こちらも大学生の話があるかもしれない。</p> <p>それから、施策8「モビリティ・マネジメント」の話についても、小学校のイメージが強いが、こちらも大学の協力があれば、大学生を対象にした、公共交通利用促進の取組事例として紹介することもあるかと思う。小学生限定という書き方に見えるため、大学とも連携していければありがたいので、文言を入れておいたほうがいいのかと思う。</p>
委員	<p>今、社発着の大阪便の検討、最終バスの延長等、高速バスの話が多く出てきた。今まで協議をしていく中で、西日本JRバスと共同運行している兼ね合いから、今後も継続協議をしていく。ご承知のとおり、全国的に、バス事業者は乗務員不足に悩まされているため、一概にすぐにとは言えないのが、歯がゆいところだが、前向きに社内でも検討していく。</p> <p>前回の会議で、西脇方面と大阪間の中国ハイウェイバスの滝野のバス停は、もっといい場所があるのではないかという発言があった。それについては、加東市から西日本JRバスにも、少し話をしていただいたので、前向きにほかのいい場所を設けられないか、考えているところである。</p> <p>実際に利用される方が、どこで乗降したら利便性が良くなるのが最重要になってくるため、せっかく議論する場があるので、一緒に候補地を考えていけたらと思っている。新路線を考える場合に、住民の方と現地を一緒に確認したり、どこがいいかと考えたりしている。申請の調整等に時間がかかるが、一緒に前向きに進めていければと思っている。</p> <p>もう1点、モビリティ・マネジメントについて、兵庫教育大学との連携についての話が出た。今までのモビリティ・マネジメントは、小学生を対象にしたものが多かったが、神姫バスでも、ここ1、2年の新たな試みとして、中学校・高校にも出向くようにしている。バスの乗り方、交通安全であれば、小学生対象でいいが、物心がついた、加東市の生徒もバスをよく利用されているので、何気なく使っているバスの現状を周知していき、「一緒に考え、守り、育てる」という場として、中高生も対象にしていきたいと思っている。</p>
会長	<p>ぜひ、大学も入れるようお願いする。事業者の方から、非常に前向きな発言をいただいた。バスのドライバー確保が深刻なのは、神姫バスだけではなく、全国のバス事業者共通の問題である。ぜひ、近所にバスの運転手になってもいいという方がおられたら、教えていただけたらありがたく思う。</p>

<p>委員</p>	<p>先ほどの大学関係のバス利用についてだが、附属小学校の児童がいて、主に社営業所から社高校前まで、路線バスを盛んに利用させてもらっている。モビリティ・マネジメントは、小学生については有意義なので、神姫バスからいろいろと指導をしていただければと思う。</p> <p>大学関係については、現在の学長が副学長の当時から、神姫バスに分刻みで運行時刻を変えてほしいとお願いをして、少しずつ改善された。おかげさまでバス利用が増えてきている。このように、連絡・調整を図ることによって、Win-Winの関係が築け、お互いが便利になってきているので、引き続き、よろしくお願ひしたい。</p> <p>もう1つ、別件で発言する。103ページの「滝野にぎわいプラザ」は、区画整理事業として実施されたのか。</p>
<p>事務局 委員</p>	<p>国の補助事業である。</p> <p>前回の説明で、現状・課題から施策に至るまでの繋がりがわかりにくいと質問した。それから、だいぶわかるようになったが、最後に基本方針をずらりと並べて見てみると、「滝野にぎわいプラザ」の部分だけが少し浮いて見える気がする。</p>
<p>会長</p>	<p>というのは、いちばんの話題となる「中心市街地」と言う限りは、「商業・サービス業」と「行政機能」と「交通立地」という3つの要素が集まってはじめて、「中心(センター)」と言えるわけで、ただ、3つとも集まらなくても、中心と言うことはできる。</p> <p>一方、基本方針については、4つに細かく分けて、きちんと整理されていて、かなり現状と将来を見通した、現実的な計画を立てていただいている。ただ、「滝野にぎわいプラザ」については、この場にも関係される方がおられたら、たいへん失礼な話になるが、現在、中心市街地の3要素が揃っているとは言えない。また、人が集まっているかと言うと、決してそうでもない。「道の駅 とうじょう」は商工会等が力を入れてかなり賑わっている。</p> <p>ただ、この計画の中に、「滝野にぎわいプラザ」を西の既存ストックの有効活用として位置づけることが、どこまで現実に即しているのかという話である。ほかの施策が非常に前向きで、かなり先まで見えている感じがするため、その分だけ余計に埋没して見えている。今のところ、入れることのメリットよりもデメリットのほうが目立っている。もう少し言葉を変えるか、あるいは、別のものに置き換えるか検討いただければと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>大学と交通事業者の連携と公共交通の利用促進の件について、加東市とも一緒に取り組んでいくよう、引き続きよろしくお願ひしたいという内容である。それから、「滝野にぎわいプラザ」を施策として強調するのがいいのかどうか、回答をお願ひする。</p>
<p>会長</p>	<p>観光関係を担当している。今、「滝野にぎわいプラザ」が商業活動に適した環境ではないというご指摘があった。平成18年に国の補助金を活用して、市内、特に旧滝野町の工業団地でできた工業製品を展示するという目的を達成するために建設した経緯がある。</p> <p>当初、建設目的以外に利用することについては、使用制限があった。ところが、建設から10年以上が経過して、総合戦略の中で西の拠点として位置づけて、交流人口を獲得する方向性が出てきた。ただし、使用制限がかかった状態では実現できないため、今年4月から国と協議を進めてきた。実際、今年10月に国の手続きを終え、使用制限が解除できた。</p> <p>自由に「滝野にぎわいプラザ」を利用できる環境の下、この施設をどのように活用していくか、また、課題に挙がっているように、拠点への交通アクセスをどのように構築していくかについては、現在、ふるさと振興協会という団体が施設を指定管理しているため、そこも含めて協議をしながら活用を進めていきたいと考えている。</p>
<p>会長</p>	<p>当初の建設目的や使用制限があったものの、これからは、交通ネットワークの拠点として、まさに賑わいをつくりだしていきたいという意志を、施策の中</p>

委員	<p>で工夫していくという認識である。</p> <p>委員から、使用制限の枠が取れたという話が出たが、にぎわいプラザには、観光協会も併設されており、このまま、西の果てに置いておいていいものなのか。やはり観光協会というものは、中心地に持ってくるべきなので、どこがいいのかも含めていろいろと考えてほしい。</p>
会長	<p>それから、もう1点、施策12「観光入込客に対する地域公共交通確保の検討」について。おもちゃ王国、清水寺、朝光寺等が挙げられているが、なぜ、無量寿寺が入っていないのか。</p> <p>観光協会の件は、現在は、にぎわいプラザに置かれているという趣旨で書かれていると思う。どこがいいかについては、地域公共交通網形成計画の話というよりは、むしろ、これから観光をどう育成するかを庁内でしっかりと議論してほしいという問題提起として承りたいと思う。</p>
事務局	<p>もう1点、無量寿寺について、事務局から回答をお願いします。</p> <p>112ページに、東条湖おもちゃ王国の名前を挙げている。周辺施設として、当然、無量寿寺も視野には入れているが、現在、観光目的では受け入れておられない。とは言え、年間で50万人ほど参拝客がおられると聞き、交通事業者と一緒にお願いに行き、交通網計画の話もした経緯がある。加東市にとっても、お寺にとっても、また、周辺施設との兼ね合いも含めて検討を進めている。</p>
委員	<p>ただ、計画の中に盛り込むまだ前段階にあるため、地域全体で考えるという観点から、資料のような記載にしている。</p>
会長	<p>今、事務局が言われたこともよくわかる。書けないのなら、前向きに、今後の検討課題として、頭の中には入れながら進めていただければと思う。</p>
委員	<p>例えば、無量寿寺に行くための交通アクセスが、さまざまな地域で問題が出ていけば、この中に盛り込んだほうが良いと思う。まだ、そこまでに至らない段階であれば、ご指摘のように頭の中に入れておいて、何か問題が生じたら検討するのがいい。</p>
委員	<p>一般開放もしているのだから、申し込みをすれば誰でも参拝できる。今の時期であれば、モミジが5,000本、春にはサクラが5,000本、満開になるので、観光資源として使わない手はない。</p>
事務局	<p>委員</p> <p>おもちゃ王国の立場もあると思うが、取組内容として「東条湖おもちゃ王国が運行する無料送迎バスとの連携や新たな地域公共交通の導入について、観光関係者や交通事業者と協議」という文面がある。具体的なレスポンスとしては、どのサイクルの段階で協議をしていくのか検討されているのか。</p> <p>今のところ、計画期間の5年間というスパンの中で協議していくという捉え方をしている。委員から、前々回の協議会の中で、先ほどの東西の拠点について、本来はその場所が適当ではなく、東条湖周辺に観光施設が集中しているため、おもちゃ王国を拠点にすべきという発言があった。</p> <p>来やすさを含めて、「道の駅 とうじょう」にも、50万人ほどの入込客がいるため、交通網形成計画の中で観光入込客増も重要な施策になっているので、併せて検討課題としている。</p>
委員	<p>やしろショッピングパークBioの件で確認する。Bioの地権者との契約は、震災の平成7年から30年契約で始まっているため、契約終了は平成37年になる。平成34年からバスターミナルの供用開始となれば、残り3年で契約が終了してしまうことになる。その後、Bioが契約を継続するかどうかかわからないので、どうするのか、よく考えてもらわないといけない。</p>
会長	<p>重要な提言をいただいた。そういうスケール観でもって考えていくというスタンスで対応したいと思う。他にご意見等がないようなので、まとめさせていただく。資料1「加東市地域公共交通網形成計画(素案)」について、何点かの文言の修正を行った上で、再度、会議を開いて、確認作業をするのは大変なので、ご異議がなければ、会長と事務局に一任していただき、まとまった結果を皆さまにご紹介した上で、次のパブリックコメントに進めていきたいと思うが</p>

<p>会長</p>	<p>よろしいか。        (委員一同から、「異議なし」の声あり)        では、そのように進めます。</p> <p>2) 加東市パブリックコメント手続きについて        事務局から説明</p>
<p>会長</p>	<p>これに関して、ご意見・ご質問等はありませんか。特にご意見等がないようなので、そのような流れでパブリックコメントに進めます。協議事項については、以上です。</p> <p><b>3 閉会</b></p>